

2021年3月期第1四半期決算に関する電話一斉取材 主なQ & A

[コスト削減]

Q： 約1,000億円のコスト削減（設備投資約540億円、営業費用約500億円）を目指すとのことだがその詳細は。

A： 設備投資は安全の確保を前提に一部維持更新投資件名の見直しを行う。なお、昨年度の設備投資額から約540億円抑制するのではなく、当社内で検討していた数値からの削減額となる。営業費用については、当初見込んでいた増減に追加して約500億円のコストダウンを目指す。内訳は、警備費用や広告宣伝費等の物件費その他約250億円、今夏の賞与約110億円、設備投資減少による建設附帯修繕費約30億円等を見込んでいる。

[業績回復見込み]

Q： 各セグメントの業績回復はどのように考えているのか。

A： 流通・サービス事業は、鉄道利用者数の影響が大きいため、鉄道のご利用と同様のペースで回復していくと考えている。不動産・ホテル事業は、ショッピングセンターは休業のあった第1四半期よりは回復していくと考えているが、ホテルはインバウンド需要が見込めないこともあり苦戦すると考えている。

[資金調達]

Q： 資金調達の考え方は。

A： 2～3ヶ月先を見越した資金調達を行っており、足元では十分な現預金残高を確保している。有利子負債の過度な積み上がりにも留意しており、今後の収入動向を見極めながら、柔軟に資金調達を行っていく。

以上